

火消し―寄贈資料からみる消防道具の変遷―

古くから現在に至るまで、人間と火は切っても切れない関係にありました。一方で、火は時に火災となり、家や財産、そして命さえ奪ってしまうこともあります。火災から大切なものを守るため、先人たちは消防制度や道具を作り、伝えてきました。

今回は、玉里史料館が所蔵する消防道具を紹介します。

龍吐水

一枚目の写真の資料は、近年寄贈いただいた「龍吐水」と呼ばれる消防器具です。江戸時代から明治時代にかけて用いられた、木製の押し式消防ポンプです。水を張った桶の中に本体を立て、T字の柄を上下に動かして水に圧力をかけ、脇の筒から放水しました。

写真：龍吐水



こちらの本体には「明治貳拾年八月吉日」と墨書が残されており、この頃使用されていたと考えられます。龍吐水は、消火活動にあたる火消の衣装に水をかける用途のほか、狭い場所や個人宅、店舗などで使用されたといわれています。

腕用ポンプ

二枚目の写真の資料は、玉里村消防団旧蔵の「腕用ポンプ」です。



写真：腕用ポンプ

これは現代の消防ポンプ自動車にあたるものです。ポンプを車に積んで火災現場まで運び、ポンプの左右側面に空いた穴に給水・放水ホースを取り付け、取手を数人で上げ下げして放水しました。

腕用ポンプが日本で使用されるようになったのは、明治8（1875）年にフランスからイギリス製のポンプを輸入したのが始まりといわれています。その後、明治17（1884）年、国産化に成功し、以後量産されていきました。

史料館所蔵の腕用ポンプには、東京横山町の「岡崎屋茂兵衛」と製造元が刻まれています。岡崎屋茂兵衛は明治時代から大正時代にかけての腕用ポンプ製造所の一つです。

火災を起こさないために

昔も今も、火災は恐れる対象に変わりありません。火災を起こさないための心構えや、万一起きてしまった時、慌てず行動することが大切ではないでしょうか。

ミニ展示「消防組」

今回紹介した資料は、玉里史料館ミニ展示「消防組」で展示しています。

期 間 3月28日(日)まで

場 所 玉里史料館

(生涯学習センターコスモス内)

休館日 月曜日、2月11日、2月23日、3月20日



問い合わせ 生涯学習課（生涯学習センターコスモス内） ☎ 0299-26-9111